

# 牛久：学校周辺に見る自然

第10号 ひたち野うしく小学校

2018年5月20日発行

## ＜ 春のみずべ公園で生きもの<sup>かんさつ</sup>の観察 ～⑥その他の植物＞

ひたち野うしく小4年生と歩いたみずべ公園、今回は、虫は見つけられなかったけど花が咲いていた植物を紹介します。



明るく<sup>しめ</sup>湿ったところに多く見られたノヂシヤ(左上)とニヨイスミレ(右上)、タネツケバナ(左下)、ケキツネノボタン(右下)。

まずは、池のまわりの明るく<sup>しめ</sup>湿った場所に多く見られたノヂシヤ、ニヨイスミレ、タネツケバナ、ケキツネノボタン。どれもハナアブ類やハチが来ていることも多いのですが、この日は見つけられませんでした。また、例えばみずべ公園ではスミレの<sup>なかま</sup>仲間が5種類は見られますが、それぞれ<sup>せいいく</sup>生育する<sup>かんきょう</sup>環境<sup>ちが</sup>が違

います。どんなところにどのスミレが見られたか、まとめてみてもおもしろいでしょう。



<sup>はいすいこう</sup>南側の排水口<sup>さ</sup>近くで咲いていたイヌザクラ(左)と、林のふちのヤマボウシ(右)。

次に、公園で一番最後に咲く<sup>さ</sup>桜<sup>さくら</sup>の<sup>なかま</sup>仲間、イヌザクラ。もう花が終わっている木もありましたが、4/24の1組さんの時にはまだ咲いていました。そして、ヤマボウシ。校庭のハナミズキに近い<sup>なかま</sup>仲間です。



日当たりのよい乾いたところに多く見られたチガヤ(左上)とニワゼキショウ(右上)、アメリカフウロ(左下)、ヤセウツボ(下中)、ミヤコグサ(右下)。

続いて、日当たりのよい乾いたところに多く見られたチガヤとニワゼキショウ、アメリカフウロ、ヤセウツボ、ミヤコグサ。チガヤは繁殖力がすごくて嫌われる雑草ですが、若い穂はかむと甘くて、私にとっては子どもの頃を思い出させる草です。ヤセウツボははじめに少し説明しましたが、シロツメクサやムラサキツメクサの根に自分の根をさしこんで栄養をとって育ち、こういうのを寄生植物といいます。ミヤコグサは花を見て分かるようにマメ科の仲間です。



最後に、林の中で見られた植物。どれも以前は市内の雑木林でふつうに見られた植物ですが、珍しくなってしまったものもあります。野草はその場所に咲くから美しいのであり、また庭に植えても育たないものがほとんど。この場所で大事にしたいですね。50年後、100年後にもみずべ公園でこれらの花が見られるかは、この地に住む皆さんにかかっています。

【理科支援員：宮内】

林の中で見られたマムシグサ(左上)とキンラン(上中)、コナラの芽生え(右上)、ジウニヒトエ(左下)、ホウチャクソウ(右下)。